

清陵同窓会報

ごあいさつ

会長 大森 栄

を重ねて今も行われており、御出席下さる様お願いして
近年先輩の参加が増えて来 会報第四号発刊の御挨拶と
ました。昨年はこの行事の 致します。

第4号

提唱者山本先生の令息藤吉氏(大正三年入学)も栃木から御一家で参加されました。母校伝統の行事に参加
又は御覽下され激励をいた
だけは有難く、そして翌
日の総会には又奮って多数

盛云だった昭和52年度総会

昨年の総会は八十周年記
いへん盛大に行われた。
当日の会次第は次のとおり
念事業の報告総会というこ
とであり、また前年総会席
上において決議されたとお
り、学年持ち回り運営の第
一回総会でもあったのでた
い、あいさつ

大森 栄 (会長)
矢島 五郎 (学校長)
藤森 利男
(本年度総会実行委員長)
山田六二 (副会長)
一、黙禱
一、議事

今年の夏は近年稀なきび
しい暑さでありましたが、
母校創立八十年史も執筆
会員の皆様にはお変わりなく
お過しなされた事と、お喜
び申しあげます。暑いと云
つても信州は月おくれの盆
が過ぎれば早くも秋の色
高い山の肌は澄んだ色を示
し、雲の影にも風の声にも
日毎に進む秋のけはいを感
じさせます。

この会報がお手もとに届
く頃は長野県はやまびこ団
体の開催を目前にして、全
県を挙げて活気がみなぎっ
ている事と思えます。夏季
大会のヨット、漕艇競技は
一足早く九月十日から十三
日まで諏訪湖で開催されま

同窓会 昭和52年度決算書 並に 昭和53年度予算書

収入の部

科目	52年度決算額	53年度予算額	備考
入会金	406.500	632.000	52年度1500円×271人 53年度2000円×316人
繰入金	200.000	200.000	記念事業会計より
繰越金	45.531	97.752	
雑収入	39.930	2.248	
合計	691.961	932.000	

支出の部

科目	52年度決算額	53年度予算額	備考
会議費	89.480	100.000	
人件費	140.000	140.000	
事務費	53.029	85.000	
旅費	34.000	40.000	
慶弔費	71.000	80.000	
総会費	41.500	50.000	
記念品費	0	136.500	卒業する生徒へタイピンを贈る
寄付金	150.000	250.000	財団清陵会へ
雑費	15.200	20.000	
予備費	0	30.500	
繰越金	97.752	0	
合計	691.961	932.000	

- 一、議事
 - 議長 藤森 利男 (支部長)
 - 会務報告 長沢 嘉久雄 (教頭)
 - 80周年記念事業報告 石井 睦哉
 - 同決算報告 長沢 嘉久雄
 - 一、支部旗授
 - 代表あいさつ 林 憲一 (岡谷支部長)
 - 一、閉会のことば 竹内 丈夫 (茅野支部長)
 - 懇親会 (司会 小口 正介)
 - 一、開宴のことば 小口 慎三
 - (副会長 東京支部長)
 - 乾杯 古村 敏章 (第18回)
 - アトラクション (賞品付くじり)
 - 懇談
 - 校歌合唱
 - 万才五味連 (長野支部長)
 - 一、閉宴のことば 平山 正健 (下諏訪支部長)

財団法人諏訪清陵会

昭和52年度決算書並びに昭和53年度予算書

科目	52年度決算額	53年度予算額	備考
基本財産収入	1,045,988	1,012,250	
運用財産収入	7,016	5,000	
一般寄付金	160,000	250,000	同窓会より
事業指定寄付金	16,710,000	0	艇庫用地取得関連費
雑収入	34,535	24,801	
前年度繰越金	237,301	157,949	
計	18,194,840	1,450,000	

科目	52年度決算額	53年度予算額	備考
会議費	21,720	25,000	
人件費	140,000	140,000	
事務費	10,350	20,000	
旅費	0	10,000	
公租公課	0	20,080	
育英費	180,000	180,000	1人年額6万円・3人分
高校教育振興費	230,000	400,000	体育活動・学術文化活動に対する補助
三沢文庫運営費	428,058	300,000	
講演会費	240,000	240,000	講演会年2回
艇庫用地取得費	16,786,763	0	
雑費	0	20,000	
予備費	0	94,920	
繰越金	157,949	0	
計	18,194,840	1,450,000	

80周年記念事業について
本総会の案内状と共に詳細を記した「記念事業報告並びに寄付者芳名簿」が全会員に届けられたが、なお本総会の席上事務局より大略次のおりの報告がなされた。

出席者一、七八八名
◆記念会員名簿発行一七、五〇〇部発行した。
◆八十周年史発行一鋭意進めており、五十四年秋発行
◆募金一昭和52年10月10日 応募者約五、七〇〇人 金額約八、三〇〇万円 目標金額四、〇〇〇万円の二倍以上となった。
◆財団法人「諏訪清陵会」の設立一募金が予想外の額

に達したので別に母校教育支援のため財団法人を設立した。基金は一、七〇〇万円
◆艇庫建設予定地購入一六斗川先の諏訪市々有地約二一〇坪を約一、六八〇万円で購入した。(現在の千貫溝上艇庫は約七〇坪)
◆同窓会基金一前記各事業を行った後、なお三、〇〇〇

〇万円は残る見込み。これは同窓会基金として今後有効に運用されていく。(当初計画は同窓会基金として一、〇〇〇万円)
記念事業は八十周年史発行を除き大成功裡に終了し、全会員に対し会長より感謝の意が表せられた。なおこの画期的大事業の推進力となった事務局はじめ各役員

に対しては、何らかの方法で感謝の意を表してはという話もあったが、これは一切辞退があったので、記念品も感謝状もすべてやめ、当日の議長の首領で全員の手もちきれんばかりの拍手をもってこれに代えた。またことさらやかな場面であった。

52年度同窓会本部の活動(抄)

五十二年	艇庫用地購入	六斗川約二〇〇坪 約一六八〇万円
四・二五	新旧校長歓迎会	小菅重男校長筑摩高校へ 矢島五郎校長蘇南高校より 浜ノ湯にて、出席約六十名
四・二二	幹事会	事業報告、決算予算等
五・二八	幹事会	事業報告、決算予算を兼ね
六・〇七	幹事会	大森会長叙勲(勲四等旭日小綬章)祝賀会、於はつしま
九・二二	常任幹事会	記念事業報告 総会打合せ
一〇・二〇	学年委員会	右同
一一・〇六	総会	総会設営は41回生を主に42回生を副として行われた。80周年記念事業の報告会でもあり約三〇〇名出席盛大
五十二年	常任幹事会	記念事業報告、基金管理、同窓会入会金値上げ等につき
二・一六	常任幹事会	

支部旗授与
今回の総会は第41回生(副42回生)の手によって行われた。藤森総会実行委員長はそのあいさつの中で一同老骨に鞭打って一生懸命やったといわれたが、本当にご苦労様でした。学年持ち回り制の皮切りが見事に成功したことは意義深いこと、あらためて感謝いたします。
各支部のシンボルとして立派な支部旗が作られ贈られた。支部総会その他支部の行事の席に飾られ、また支部会員の慶弔にも使用される。

住所・勤務先等変更の方は事務局長までご連絡を：
事務局では常に会員の移動を記録しております。移動のあった方は回別(又は入学年度)氏名、自宅、勤め先、各電話番号等ハガキにてお知らせ下さい。
なお五十一年度発行名簿購入の方は、その名簿の中にハガキが入っておりますので、それをご利用下さい。

学校の現況

会報第四号の紙面を借りて、母校の現況について簡単にお知らせします。

高等学校進学案の上昇にともなう、最近の高校生

の非行の増加はいちじるしいものがあります。こうした新聞記事を見るたびに、清陵生はどつたらうと思つておられる同窓各位が多いことと思いますが、母校清陵に関しては非行問題は皆無であり、よくいわれる三無主義とか五無主義とかいうことは清陵生にとっては無縁であります。むしろ日常の勉学にクラブ活動に意欲をもって取り組んでいるというのが現状です。最近の傾向として、とくに運動系のクラブ活動が活発になってまいりました。こうしたことも清陵八十余年の伝統の力と云えます。

女子生徒の増加と教育課程の面から、女子生徒の家庭科必修が義務づけられ、調理教室の下に完成。

自転車置場の増設
自転車通学生の増加にともなうて。

庭球コートの増設
旧記念館(学友会館)跡へ。

便所の改修
汚かった北便所を改修して面目一新。

本年度中に着手、完工予定の校舎、施設
温泉引湯
懸案であった温泉を引湯して生徒のシャワー室へお湯が出るようにする。

四教室(フレハ乙)の増築
校舎、施設の状況
生徒増にともない、狭隘な校舎、校庭は一層狭く感ずるこの頃です。昨年から本年にかけて増築、改修の完了した校舎、施設
格技室
焼失した旧記念館(学友会館)の前に。
被服教室

女子生徒の増加と教育課程の面から、女子生徒の家庭科必修が義務づけられ、調理教室の下に完成。

自転車置場の増設
自転車通学生の増加にともなうて。

庭球コートの増設
旧記念館(学友会館)跡へ。

便所の改修
汚かった北便所を改修して面目一新。

本年度中に着手、完工予定の校舎、施設
温泉引湯
懸案であった温泉を引湯して生徒のシャワー室へお湯が出るようにする。

四教室(フレハ乙)の増築
校舎、施設の状況
生徒増にともない、狭隘な校舎、校庭は一層狭く感ずるこの頃です。昨年から本年にかけて増築、改修の完了した校舎、施設
格技室
焼失した旧記念館(学友会館)の前に。
被服教室

女子生徒の増加と教育課程の面から、女子生徒の家庭科必修が義務づけられ、調理教室の下に完成。

自転車置場の増設
自転車通学生の増加にともなうて。

庭球コートの増設
旧記念館(学友会館)跡へ。

便所の改修
汚かった北便所を改修して面目一新。

本年三月の大学合格状況
総数 現役 浪人
国立二期 三二 二八
国立二期 六〇 三二 二八
公立 六
私立 六
三三三 一四八 一六五

このうち現役の進学者数は一五四名、進学者率五七%です。国立二期のうち東大は九名、国立二期では最近の傾向として信大が増加しております。私立では日大二八、早稲田二七、理科大二三、明治一八、慶応一六などが合格者の多いところ

です。なお、医学部は最近異常に難しくなってきましたが、国立二名、私立七名が合格しております。

本年度の行事
すでに終了した行事
入学式(四月四日) 新入生歓迎会(四月十五日)
クラブ研究発表会(四月二十二日) 湖周駅伝(四月二十八日) クラスマッチ

このうち現役の進学者数は一五四名、進学者率五七%です。国立二期のうち東大は九名、国立二期では最近の傾向として信大が増加しております。私立では日大二八、早稲田二七、理科大二三、明治一八、慶応一六などが合格者の多いところ

です。なお、医学部は最近異常に難しくなってきましたが、国立二名、私立七名が合格しております。

本年度の行事
すでに終了した行事
入学式(四月四日) 新入生歓迎会(四月十五日)
クラブ研究発表会(四月二十二日) 湖周駅伝(四月二十八日) クラスマッチ

このうち現役の進学者数は一五四名、進学者率五七%です。国立二期のうち東大は九名、国立二期では最近の傾向として信大が増加しております。私立では日大二八、早稲田二七、理科大二三、明治一八、慶応一六などが合格者の多いところ

です。なお、医学部は最近異常に難しくなってきましたが、国立二名、私立七名が合格しております。

本年度の行事
すでに終了した行事
入学式(四月四日) 新入生歓迎会(四月十五日)
クラブ研究発表会(四月二十二日) 湖周駅伝(四月二十八日) クラスマッチ

端艇大会(九月二十九日)
これからの行事
クラスマッチ(十月十二日)
湖周マラソン(十月二十八日)
二年生研修旅行(十一月十四日-十七日) スキー教室(二月二十九日-三十一日) 卒業式(三月九日)

このうち現役の進学者数は一五四名、進学者率五七%です。国立二期のうち東大は九名、国立二期では最近の傾向として信大が増加しております。私立では日大二八、早稲田二七、理科大二三、明治一八、慶応一六などが合格者の多いところ

です。なお、医学部は最近異常に難しくなってきましたが、国立二名、私立七名が合格しております。

本年度の行事
すでに終了した行事
入学式(四月四日) 新入生歓迎会(四月十五日)
クラブ研究発表会(四月二十二日) 湖周駅伝(四月二十八日) クラスマッチ

このうち現役の進学者数は一五四名、進学者率五七%です。国立二期のうち東大は九名、国立二期では最近の傾向として信大が増加しております。私立では日大二八、早稲田二七、理科大二三、明治一八、慶応一六などが合格者の多いところ

です。なお、医学部は最近異常に難しくなってきましたが、国立二名、私立七名が合格しております。

本年度の行事
すでに終了した行事
入学式(四月四日) 新入生歓迎会(四月十五日)
クラブ研究発表会(四月二十二日) 湖周駅伝(四月二十八日) クラスマッチ

このうち現役の進学者数は一五四名、進学者率五七%です。国立二期のうち東大は九名、国立二期では最近の傾向として信大が増加しております。私立では日大二八、早稲田二七、理科大二三、明治一八、慶応一六などが合格者の多いところ

です。なお、医学部は最近異常に難しくなってきましたが、国立二名、私立七名が合格しております。

本年度の行事
すでに終了した行事
入学式(四月四日) 新入生歓迎会(四月十五日)
クラブ研究発表会(四月二十二日) 湖周駅伝(四月二十八日) クラスマッチ

古いのれんと新しい設備
鷺の湯を象徴する新館が落成致しました

政府登録旅館

鷺の湯 諏訪観光ホテル

代表取締役 伊東克郎 (50回)

諏訪市湖岸通り3-2-14

TEL (02665) 2-0480

少なかつたように思う。そ
れは仕方がないことでもあ
るし、負け惜みながらそれ
でいいと思う。

諏訪中学校の校歌「ああ
博浪の」の二番に「空しか
るべき男の子やもいで独歩
せん大地に」の一節がある。

これは万葉集山上憶良の歌
「男の子やも空しかるべき
万代に語り継ぐべき名を立
てずして」から引用して

いる。万代に語り継ぐべき
名を立てざるが、男子とし
て空しかるべきかどうかは、
見解の別れるところである
が、千万人と雖も往住かん
の気概を持ちながら、私た
ちの年代の者には多かれ少
なけれ、空しかるべきの感
既を心の底に秘めているに
違いない。それは自嘲とい
う勿れ、むしろ床しき謙遜
である。せめて、さまざまま
な体験を積み重ねたことを

誇りに思い、よき時代に生を
受けたと思うことにしたい。
この文集の題名を「空しか
るべき」とした所以はそこ
にある。

思えば、幽冥境を異にし

た友は六十余人を数える。

心からご冥福を祈るとも
に、私たちは、今現在、生
きている幸せをしみじみと
有難く思う。万代に語り継
ぐべき名を立てずとも、こ
し方を振り返れば、語り継
の辞（序文から）

昭二一会雑録

宮坂 亨

昭和二年に卒業された先
輩方の同級会の名前を知ら
ずに、昭和二年に清水ヶ丘
に入学した吾々が、その同
級会名を、同じく昭二会と
したのは、第一号の同窓会報の
誌上であった。順序から言
えば、先輩方の御命名の方
がさきであるから、吾々の
方が改名しなければならな
いが、ツクのない連中のこ
と、其のままにしておりま
す。先輩の御育免の程を
……。

此の前の御柱年（昭和四
十九年）吾々の大部分が甲
の寅の、相当コタと言う名
が通つておる連中で、それ
が六十になったからと集ま
るべきことは多い。そして
それは千万言を費しても、
到底語り尽せるものではな
い。せめてこの文集の行間
はそれぞれの思い出埋め
て欲しい。（空しかるべき
の辞（序文から）

……。
小松君については、今年
の年賀状に次ぎのようなそ
れを送つて来た。
これは、さきの還暦同級
会の折、所在不明者を探す
うち「森山活石君在ブラジ

ル」と言うーそれが気にな
って、なんとか探し出した
いと、九州読売の重役にな
り、定年退職後も北九州市
にがんばっておつた小松君
の顔の広さにたよると、
連絡したことに對しての、
年賀状をかねた返事であつ
たが、これが小生に對する
絶筆になってしまった。
同窓の方で、ブラジルに
縁故のある方、昭二会会員
の森山活石君について、お
知りの方、何とぞ諏訪市諏
訪二一八（二三九二）
（デンワ〇二六六五〇八一
〇二六）の小生に知らせ
ていただきたいものです。
四）

小松君の未亡人からは、
「自分の選んだ新聞に」読
売に一生を捧げたことの満
足」と小松君の胸中を伝え
る淋しさのなかにけなげさ
を感じさせる知らせがあつ
た。
今井君の事は、高木常雄
君からの連絡であつたが、
これまた最近になつかしい
御便りをいただいた方なの
で残念であつた。
八十周年記念会員名簿の
補いを追記します。願不同
判らない人のそれを探すの
は、一種の推理小説的興味
がありました。名簿整理の
方の御苦勞を察します。

◆山田徳郎 〒665 宝
塚市高司二丁目94-5（電
話〇七七七二一四七六
四）
◆矢嶋松朗 〒808 保
谷市富士見町四-17-7
住所 東村山市萩山町四-
10-19（電話 〇四三三
一）



小松君
電話〇九三九五〇七

結 婚 式
大・小宴会・集会
出張パーティ

東洋軒

フランス料理
日本料理

◇神宮外苑	日本青年館内	東京都新宿区霞ヶ岳町15	03-401-7530
◇馬場先門	東京商工会議所内	千代田区丸ノ内3-2-2	03-213-1725
◇飯田橋駅前	飯田橋会館内	千代田区富士見2-10-36	03-264-7588
◇新宿駅南口	池田ビル地下	渋谷区代々木2-7	03-379-1461

※日本青年館は国際会議場を含めた近代的設備をととのえまして
54年2月1日新装オープンいたします。郷党の皆様のご利用を
お待ち申し上げます。

地域の指導者

下諏訪支部

猛暑の中、同窓会の皆様

方各界に於て縦横に御活躍の御様子、誠に心強い限り

であります。其の後記念事業は誠に順調な歩みをつ

け強力な募金体制の下に、相当額の同窓会基金が出来

同時に誕生した財団法人諏訪清陵会の発足と共に同窓

会活動が資金の裏付をもつて母校への力強い教育振興

郷土の学術文化の向上、更に社会への貢献と動き出す

基盤を確立されました事は誠に同慶に堪えない所

あります。

五十二年総会は此の成果を称え、学校、並びに同窓

会発展のため協力を誓い合

う本心に心温まるものであります。中でも支部旗の

伝達は大変に印象的であり、各支部にとりましては力強

い「シンボル」として會員から喜ばれております。す

伝統の証として大切に継承

したいと存じております。さて清陵高校創立以来幾

多の優秀な先輩を始めとす

る同窓生が日本各地各界に於て活躍し立派な国家的社

会的貢献をし、世の注目を浴びておりますが、一方目

立たず夫々の地に於て又郷土に於て、数多くの同窓生

が尽して来られた役割もまた非常に大きく貴重なもの

があります。特に永い年代に亘り地道に声なき指導者

として地域の人々の教育に、流の場をもっと多く持つ必

要もあるわけであります。

文化に、又公正な与論に大

きな指導的役割を果たして

来られた功績は、高く評価

されなければならぬと存じます。この事は次の時代

与える傾向は否めない事実

であります。私共は母校の教育振興、学術文化の向上、

六月に両角俊一氏(三十二

回)が日本武道館で行われ

で「エゴ」を排し、厳しく

もって人に接し、鋭い感性

によって未来を創造しようとする意欲を持つ事をこれ

からの若者に鼓吹し共感を

得たいと存じます。

下諏訪支部におきまして

もそうした意味を考えながら機会を求めて在校生との

接触を作つて見たいと存じております。それにつま

な動静報告並びに愚見を申し上げます。

(下諏訪支部長・平山正健)

折角努力を致したいと考え

ております。また全国文化功労者表彰

式で永年に亘り諏訪音響を

育成した功績により文化庁

長官より文化功労章を受け

られました。此の部門では

全国二名の内の一人という

事があります。又等原卓爾

氏(第十七回)三輪良三氏

(第十八回)両氏も去る六

月下諏訪町制八十五周年記

念式に町功労者として表彰を受けられました。以上

申し上げます。

(下諏訪支部長・平山正健)

で厚く御礼を申し上げると

時に御健康に御注意の上な

お一層の御支援をお願い申

し上げる訳でございます。

議題となりました支部強化

の一環として新役員は次の

通り御推薦申し上げ夫々決

定を致しました。

諏訪支部長 藤森 慎次

上諏訪地区長 井上 彦次

四賀地区長 浜 新太郎

中洲地区長 金子 功

湖南地区長 衆野 正文

豊田地区長 小泉 憲市

各地区長以下の部落別地区委員の新役員の皆様方も

是非一つ御多忙と存じます

が、支部発展のため御協力を下さる様お願い申し上げます。

な。なお本同窓会の学年委員の方々も支部役員として御承認を得られました。

何分よろしく御願ひ申し上げます。

議事終了後宴会に移り色色と諸先輩より建設的な御意見等を頂きました。校歌の合唱を致し散会となりました。諏訪支部の今後の発展を祈ります。

(諏訪支部長・藤森慎次)

新たに地区長

諏訪支部

同窓会諏訪支部では支部

活動の強化と、新支部旗披露と役員改選等の議題を以

つて昭和五十三年二月二十

二日、湖畔通り緑水荘ホテルにて支部総会を開催致し



信州高原の香り

粕漬

信州味噌



信州味噌 醸造元 丸井伊藤商店 有限会社 伊藤重雄

茅野市宮川4529 TEL 2-2272

支部総会11月21日

東京支部

◇幹事会

例年新緑の候に開かれる
支部幹事会は支部長の中国
招待旅行などもあり、少し
おくれて七月二十五日夜飯
田橋会館にて開催。矢島八
洲男(18回)野沢隆一(21
回)太田和夫(24回)など
長老を含め出席5名。

別項の通り当支部幹事会
は同窓会員なら誰でも出席
し、意見開陳を歓迎するオ
ーブンな懇親会なので、当
夜は若い会員の自由な発言
多く、紅一点5回生三沢紀
子さんも「もしいい方が居
られたら……」とのひかえ
めの挨拶。これに応じて阿
木翁助さんの当意即妙な諷
訪女性推奨のスピーチなど
あり、旧交情誼をあたため
これが諏訪人の集まりかと
うたがうばかり。建前や理
屈ぬきで、和気藹々裡に八
時すぎ散会。そのあとの二

三、本年度の東京支部総
会は 11月21日(火)に
開催する。会場は恒例の大
手町農協会館国際会議場。
今からその日のリザーブを
どうぞ。

四、支部総会の設営、進
行を担当するため当番クラ
ス制を採用し、支部内規と
する。
本年度秋の総会を担当し
てくださるのは四十二回生
の在京クラスメンバーで、
副担当は四十三回生と決ま
る。

五、支部年会費(事務所
設置のための基金積立)の
趣旨徹底と納入促進につい
て、クラス会組織を通じ二
段と推進体制の強化を合議
六、五十年に発行した東
京支部会員名簿の統刊を五
十四年度に行うこととし、
本年中にも資料収集に着手

する。また名簿掲載事項を
充実し、面白くて、読める
名簿とするため、委員会を
設け編集内容の検討に入る。
要するに、名簿を簡単な自
己紹介の場とし、略歴、専
門分野、著作、会員間の縁
故関係(親、兄弟、妻など)
を一定のスペースにのせて、
お互いに知り合おうとする
趣旨である。

△新役員
七、支部役員を改選。長
老クラスの支部幹事、級会
委員を顧問に推戴し、これ
らの方の幹事としての雑務
は常幹および事務局が代行
しお手数をかけないこと
とした。

八、支部長小口慎三(36)再任
の校舎再築問題もようやく
日の目を見ることになりそ
うで、そのための調査費の
予算がつくメドがついて来
たこと。

顧問山岡武(12) 伊藤
林作(13) 武井武雄(14)
山口正実(16) 有賀松夫
(17) 柴田正家(18)
矢島八洲男(19) 古山
主一郎(19) 松原正香
(19) 牛山清人(20)
野沢隆一(21) 林要一
(22) 尾沢富齋(22)
中城竜雄(23) 中島為
好(23) 太田和夫(24)
大堀高志(24) 尾沢修
治(25) 古山二郎(25)
森元紀美雄(25) 後町
要(26) 矢島成重(26)
小林直人(27) 以上

①木造老朽をかこつ清陵
の校舎再築問題もようやく
日の目を見ることになりそ
うで、そのための調査費の
予算がつくメドがついて来
たこと。
②清陵に温泉が出るはな
し、といってもすぐ下の清
水からの引湯であるが、温
泉のある高校なんて全国で
も珍らしいからとOB連
中は大喜び。

不二屋 新村良雄

阿部陶器 阿部武義

宮坂時計店 宮坂勝

奈良屋 窪田敦

フシミヤ 井上哲男

古さの中に新しさを加えた
サービスの店

みのわや旅館
レストランみのわや

辰野駅前 TEL 02664-2-0032

理科教育振興基金の 現況と沿革について

財団法人・長野県諏訪清
陵高等学校理科教育振興基
金の現況を報告します。諏
訪清陵高校創立八十周年記
念事業の一環として行われ
た財団法人長野県諏訪清陵
高等学校理科教育振興基金
(以下財団理振)の基金増
額のための寄付金募集は諏
訪地方の事業所に趣意書を
お届けしてご協力をお願い
したところ、三十九の事業
所、団体から総額千八百八
十二万円の寄付をいただき
ました。(この財団理振の
寄付行為は税法上のために
より五十三年六月末をもっ
て終了しました。)

「諏訪清陵高校職員およ
び生徒の理科教育に関する
研究を奨励援助し、その振
興に寄与する」との目的に
深い理解を得たものとして
たいへん感謝しております。

- | | |
|-------------|---------------|
| 寄付内容次のとおり。 | 寄付内容次のとおり。 |
| 二百万円 株式会社精工 | 株式会社、日新工機株式会 |
| 株式会社精工 | 社、高島産業株式会社、株 |
| 株式会社精工 | 式会社今井工務店、株式会 |
| 株式会社精工 | 社、三和光機製作所、有限 |
| 株式会社精工 | 会社三和光機製作所、江黒 |
| 株式会社精工 | 鉄工所株式会社、細川商店 |
| 株式会社精工 | 株式会社、帝国ヒストリ |
| 株式会社精工 | ック株式会社、株式会社清 |
| 株式会社精工 | 水ニット、有限会社小松精 |
| 株式会社精工 | 機工作所、株式会社諏訪丸 |
| 株式会社精工 | 光、中央印刷株式会社、株 |
| 株式会社精工 | 式会社一印長野県合同青果 |
| 株式会社精工 | 株式会社スタンダードプレ |
| 株式会社精工 | ス、亀源醸造株式会社 |
| 株式会社精工 | 二十万円 大和電機工業 |
| 株式会社精工 | 株式会社、ひかり味噌株式 |
| 株式会社精工 | 会社、マイクロエンジニアリ |
| 株式会社精工 | ック株式会社、諏訪ビル株 |
| 株式会社精工 | 式会社、プリジンスンタイ |
| 株式会社精工 | ヤ長野販売株式会社 |
| 株式会社精工 | 十万円 大坂屋常太郎商 |
| 株式会社精工 | 店、大木白木屋、諏訪木材 |
| 株式会社精工 | 株式会社。 |
| 株式会社精工 | 三十万円 東洋精機工業 |

この機会に財団理振の現
況と沿革の概要をお知らせ
致します。

事業の現況

財団法人長
野県諏訪清陵高等学校理科
教育振興基金(昭和五十
一年九月設立した財団法人諏
訪清陵会とは別組織)の主
たる事業は①長野県諏訪清
陵高校職員・生徒の理科教
育を中心としての研究、お
よび施設、設備に関する助
成金の交付、②前号による
研究成果に関する資料等の
刊行であります。

財団理振では、このたび
ご寄付いただいた千八百八
十二万円のうち、長年の使
用でいたみのはげしい天体
望遠鏡を、百五十三万円で
五藤光学 十センチメートル
ル屈折赤道儀(付属品を含
む)に買い換え生徒たちが
本年度からの太陽黒点の観
測を含めた種々の天体観測
に利用し成果をあげていま
す。寄付金残千七百二十九
万円は、財団理振の基本財
産に繰り入れましたので、

財団理振の基本財産は昭和
五十三年三月三十一日現在
二千七百八十九万円になり
ました。昭和五十三年度は

この基本財産から生まれる
果実(利息)を運用財産と
して次のような事業をして
います。一つは生徒の理科
関係クラブの研究に対する
助成にあてています。主な
研究項目を上げますと、物
理関係ではミュージック・
シンセサイザーの制作外二
件、化学関係では角間一衣
之度水系の汚染分析外一件
生物関係ではミヤマシロチ
ヨウの生態研究、諏訪湖の
プランクトン、洪のエゴの
水生植物外四件、地学関係
では太陽黒点の観測外四件
以上の研究に三十五万円の
助成金をあてています。ま
たこれらの研究の多くは長
年の継続研究で七月末の清
陵祭に展示発表され、その
内容の深さ、豊かさ、ユニ
ークさは見学者の方々から
高い評価を受けました。そ
の作に校内理科教育充実の
ための資料購入に百七十九



味が、す

みや 竹

株式会社 竹屋 本社工場 諏訪市湖岸通り 電話 2-4000
松本市出川町 電話 25-2552

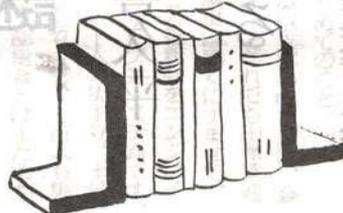
万円を助成し、全生徒対称 (第13回) 同世話人代表古の理科の授業に生かされ感謝されています。また一年間の研究成果を年度末に理科研究集録として小冊子にまとめための助成に十二万円をあてています。以上が事業の概要ですがこれら事業については毎年年度当初に理事会を開き、学校側よりの資料を参考に、事業全般について協議し、助金の交付等を決定しています。 (第14回) 同世話人代表古の理科の授業に生かされ感謝されています。また一年間の研究成果を年度末に理科研究集録として小冊子にまとめための助成に十二万円をあてています。以上が事業の概要ですがこれら事業については毎年年度当初に理事会を開き、学校側よりの資料を参考に、事業全般について協議し、助金の交付等を決定しています。

沿革の大要 昭和三十八年四月 諏訪市本町山崎社一氏 (第51回現PTA会長) から亡父山崎久夫の遺志により諏訪清陵高校理科教育振興基金として五百万円の寄付する旨、北原明治校長に申し出があったので、同年七月二十二日に財団法人長野県諏訪清陵高等学校理科教育振興基金設立準備会を開催。同年十一月二日設立発起人会を開き財団法人設立を決定する。(設立発起人会議長 故宮坂伊兵衛

【理事長】金子定正 【理事】大森栄、宮坂栄一、上田晴一、山崎壮一、細川昭八、林清市、山岡利平、山岸淳、小口平治、藤森横次、遠藤智義、矢島五郎 (学校長) 【監事】平島昭、林善八郎

以上財団理振の現況について書きましたが、今後とも会員の皆様には当財団理振に格別のご援助をお願い致します。なお、当財団理振についてお気づきの点がございましたら清陵高校内の財団理振の係までご連絡下されは幸いです。

故宮坂伊兵衛氏の遺志金三百万円外により基本財産が増え、昭和五十年三月三十日現在で千六十万円、昭和五十二年七月より八十周年記念事業の一環として資金増成を行い、昭和五十二年三月三十一日現在、二千七百八十九万円の基本財産となりました。また昭和五十二年七月現在、次の役員により財団理振は運営されて



諏訪清陵高等学校同窓会岡谷支部

- 支部長 林 憲 (28回)
- 副支部長 木 常雄 (33回)
- 同 宮 坂 久 臣 (49回)

事務局 諏訪信用金庫本店 (岡谷市本町7番41号 電話岡谷3-4567)

郷土が生んだ天下の銘酒 マスミ

品質一筋に
真心こめて300年
七号酵母を生み
全国品評会に日本一の栄冠を
運れた おいしいお酒です

清酒真澄・神州一味醸造元 宮坂醸造株式会社 諏訪市元町 電話2-6161

特級酒 一級酒



続「あゝ搏浪」の謎

作者「雪窓」は中島喜久平

新資料発掘さる

八十年史編集委員会



「昨年の秋発行された同窓会報第二号に、原田福太郎氏(四三回)の「校歌祭からして、推測が許される『あゝ搏浪』の謎」と題する一文が掲載され、作者は中島喜久平氏(四回)であり、これに手を入れ、曲にあるという定説に対して疑問が投げかけられた。原田氏としては従来の定説を疑っていたわけではなく、岩波泰明氏(三三六回)から聞いた話に驚き、八十年史にたずさわるとして、作者は果して中島喜久平氏か、竹内節二氏(七回)かの謎を解明しようと、精力的に資料を読み、聞き書きをして、一つの推測を下すに至

ったのであった。結論の部分で、喜久平氏の自家筋に「旧姓士橋」に対し、喜久平氏の関係者として真相究明に努めよという要請も多かった。源造氏としては中島家の係累の一員としてその発言が誤解されかねないことをおそれしたが、多くの同窓生や八十年史編集委員会等からの要請も強く、また、中島家の縁にながらむものとしての責務という気持ちもあって、この問題の解明のために、諏訪の地はもちろぬ、東京や京都までも東奔西走して下さ

ることとなった。以下の論考は喜久平氏の甥原伸一氏(山形県寒河江中学出身)および中島源造氏の集められた資料と示唆による点が多である。

原田氏の推論
さて、会報二号に掲載された原田福太郎氏の論文を見ると、一見、竹内節二氏が「あゝ搏浪」の作者であることと感ずるのであるが、原田氏自身、前述の結論はあくまで「推測」であつて、この推測が「わが母校校歌制定の、含蓄多い経過の事実を曲けてはいないかと恐れ」ていられた。(原田氏は昨年八月、若くして死去された)原田氏の推測の基をなすものは次の二点である。①「死後の成名は別として、三十二年の短かな生涯において、中島自身は一度も『雪窓』と号した事はない。まさに「雪窓」は中島喜久平ではない。別人でなければならぬ」ということ。(中島喜久平の成名は瑞雲院法誉誠心雪窓居士である)②昭

和二十六年の「校史研究」にのっている藤森勝郎氏(五回)の「思い出」と題する文中に「以上の外にやや遅れたのが、私の一年先輩で、当時一高生であつた秀才中島喜久平氏作の『あゝ搏浪の樋とりて』の歌であつた。これは同氏が自発的に作つたのか、誰かに頼まれたのか審にしないが、兎に角以上三つができた」とあり、当時の雑誌部委員長が依頼もしなかつたのにおくられて出たしかも「誰かに頼まれたか審にしない」とほかすようなことを言っているのは、その背後に何かあつたのではないかと、という二点である。

校歌募集の経緯
論述の都合上、第二点の校歌の応募に関する事から先に考察することにした。この点に関しては、原田氏の論も結局は憶測に過ぎなかつたのであるが、それにしても二、三の反証を考へることが出来る。まず、藤森氏の「思い出」と題する文は、昭和二十六年に執筆

創業明治二年 東都のれん会会員 高級江戸前佃煮老舗

株式会社 **海老屋總本舗**

本社 東京都墨田区吾妻橋1-15-5 東京(03)(625)0003代
代表取締役 川北利雄(48回)

されたものであって、同氏が雑誌編集にたずさわった明治三十六年からは、約五十年近い歳月が流れ去っていることに注意しなくてはならない。藤森氏は、氏の恩師であり、当時東京高師生であった伊東長七氏と、二年先輩で二高二年生の茅野儀太郎氏(三回)とに依頼したことを記して、中島喜久平氏に記しては、自発的な応募なのか誰かに頼まれたのか「審にしない」とされている。しかし、自らの意志で恩師、先輩に依頼したという大きな事柄の記憶は、比較的鮮明に残り、しかも、自分の介入しなかつた事柄の記憶は、何等怪しむに足らないのである。

喜久平氏の応募

さらに、当時の学友会長が年々毛筆で記録していた「諏訪中学校学友会記事」を見ると、明治三十六年四月二二日の総務役員会において十件の事項を議決しているが、その第五項に「雑誌発刊、年一回(九月)学友会誌を発刊する事。雑誌編輯と記している。学友会誌の

発行と校歌の制定は、中島喜久平氏の卒業した翌年度に決議されたといえ、前会長であった喜久平氏の意向がそこに反映していることは充分考えられることであるし、内外員の連絡をこまめに強調している氏としては、東京に遊学してはいない、校歌制定の事情を熟知していたと推測しても決して間違いではなからう。さらに喜久平氏の実弟中島真次氏(五回)のち市原家の養嗣子となる)が、明治三六年校歌制定時の副会長になっていられることも、この推測の可能性を一段と増すものである。(なおこの学友会長自筆の「記事」は原田氏の没後に発見されたもので、氏は生前これを見る機会がなかったことをつけ加えておく。)

とすれば、在学中から後輩の名も高く、學劍においてもぬきんでた練達の上であり、衆引厚くして学友会長に推され、一高入學後も「郷健児に呈す」(会誌第一号掲載)という傲文をばじめとして、しばしば学友会誌に投稿している中島喜久平氏が、母校のために自らの意志で試作校歌を送ってきたても、何の不思議もないわけである。

次に、原田氏のあげる第一点の「雪窓」の雅号であるが、氏は詳細に学友会誌を検討して、中島喜久平氏は「雪窓」と号したことがなく、反面、竹内節二氏は、中学時代に使用した教科書に「雪窓文庫」の蔵書印を使っていることを確かめ「雪窓」はまさに竹内節二氏に他ならないとされた。たしかに竹内節二氏の実弟竹内省三氏(一八回)も、昭和十年の信陽紙上に「愚兄野水を憶ふ」と題する一文を寄せ「雪窓の号は祖父黙庵の通称であって、兄は本名をもじった雪児、雪窓の名をよく使った」と書かれている。また中島源造氏は、わざわざ東大駒場校の図書館に行き一高「校友会雑誌」をしらべられたが、その中にも「雪窓」のペンネームはなかったと言われる。こうした点からすれば、「雪窓」は喜久平氏ではなく、雪窓一節二氏説は確かなものと思われたのも無理無からぬことである。

雪窓と雪窓生

しかし今年の三月、中島源造氏が御尊父(父政一郎氏)喜久平氏の従弟)の遺品を整理されていた折、手文庫の中から古ぼけたノートが出て来、その表紙にローマ字でK・NAKAJIMAと記された下に「雪窓の二字が大きく書かれていたことを発見した。さらにその裏表紙には「明治33年 AUGUST 郡立諏訪中学校第三年生雪窓」とも記されており、ノート中にも「新体詩 雪窓」「首夏雑吟 雪窓」と記された箇所のあることがわかった。中島喜久平氏はやはり「雪窓」だったのである。

かくして中島雪窓と竹内雪窓の二人の「雪窓」のことが判明した。となる

ハナマルキ

おみそづくりを通じて
日本のおかあさんに奉仕する
ハナマルキ味噌

ハナマルキ味噌株式会社

取締役社長 花岡金郎(37回生)
専務取締役 小松良樹(51回生)



と、学友会誌にのった「雪窓」名の文章は、はたしてそれが中島氏のものであり、どれが竹内氏のものであるかが、まことに判然としなざることになる。しかし校歌「あゝ博浪」の署名は「雪窓」であるのに対し、他の文章はすべて「雪窓子」「雪窓生」「雪子」であつて「雪窓」ではないのである。(公報二号の原田氏の論文中「運動会に就きての所感」一説説文雪窓一とあるのは「雪窓生」の誤り)校歌以外のこれ等の文章は、その内容、文体等から推して、原田氏も言われるように、竹内節二氏のものと考えられる。だとすれば竹内節二氏は、会誌に校稿するに当つては「雪窓子」または「雪窓生」としてゐたのではないだろうか。すなわち、校歌は雪窓一中島喜久平氏であり、それ以外の文章は雪窓子・生・竹内氏であつたと考えられるのである。

喜久平の人となり
ここまで論じれば「あゝ博浪」の作者「雪窓」が中島喜久平氏であることを疑う余地はほとんどなくなつたと言つても過言ではないことであるが、「雪窓」が二人いたという以上、原田氏の出された疑問が全て水解したとはいひ得ないところもないことはない。そこで、さらに二、三の点をつけ加えて、中島喜久平作ということの傍証としたい。辰野在任の春日昌太郎氏(七回)は、九十一歳という老齢にもかかわらず、この問題のために、わざわざ在京の同窓生を訪ねたり、清陵へも足を運んで下さつたのだが、同級生である竹内節二作とは、本人自身の口からも周囲の人々からもかつて聞いたこともなく、氏の記憶の中に鮮明に残つてゐる中島喜久平氏は、中野正剛の如き人で、まさにあの校歌に流れる思想にびつたり的人物であること、また正義感強く潔癖の士であつて、とても他人のもの

に自分の名前を冠して恬然としていられるような人ではないことを強調されてゐる。このほか、今井文平氏(五回)藤森三郎氏(七回)また竹内節二氏と同級であつた故北村勝雄氏(七回)と親交の厚かつた馬島律司氏(二〇回)林喜好氏(七回)も同様のことを中島源造氏に語つておられる。当時の人々が、竹内節二氏作とか、それに類する何等の噂も耳にしなかつたといふことは、無言の証拠とするに足るだけの重みを持つてゐるのではないだろうか。中島源造氏の父氣一郎氏が「平作さ(喜久平氏の父隣家に住んでいた)が」とても難しい歌を書いて学校(諷中のこと)へ送つたお手紙に書いて寄つたが、キッカーの奴、何を書いてあるんだか」と言つていたことを源造氏が記憶してゐる。これはもしかすると「あゝ博浪」の校歌のことではなかつたらうか。

喜久平の文と詩句
原田氏も指摘してゐるように「中島の論説文の中に、校歌と同一、または同一の調べに近い詩句が散見される」のである。例えば「打破せむ腐鼠の奴はらが」「いかで世の奴原が昏々たる夜半の睡を醒す」「郷健児に呈す(以下同じ)」「山高の骨ゆく青雲の高き志を身に負いて」「今の富士の根の高き望を身に負いて」「風雲紫閃の間より」「紫雲地に閃き速きこと閃電の如く」「乱麻を断つるの英傑は其の地人士の精神の凝りてはいづ」と「快刀乱麻を絶つる士……大英雄を生ずる決して偶然にあらず。必ずやその地方美徳の粹を代表して出づるものを」「超々武夫のおもかげ」「將軍が超々たる武將の風骨(中島軍歌「乃木大将」)」「朝風暮煙名細しき」「赤穂の朝風暮煙にも(赤穂義士)」「理想の花の咲かひまで」「永却萎まない理想の花を咲かせた」「(二宮尊徳)等々。「乃木大将」以下の三書

は、喜久平氏が大学卒業後、友人の困窮を助けるために、華厳というペンネームで書いた児童向けの啓蒙書)こゝうした辞句の相似は、あるいは当時の慣習句であつたとも考えられないこともないが、中島喜久平氏の寄せた論説文を見るに、その思想は「あゝ博浪」の校歌中のそれと、全くと言つていはいほと同じことを論じているところが多い。「一方竹内節二氏の論説文および随想には、天下国家を論じあわせて諷中を生を叱咤激励するといった論調は見当らないのである。

喜久平の文才
「あゝ博浪」の曲が、中島喜久平氏の一高一年生の時に作られた軍歌のメロディーを借りてゐることも、一つの証拠であることは、原田氏がすでにのべられたことであるが、同じ一高との関連で言えば、天下の秀才の集る一高においてすら、喜久平氏の文才の並々ならざるものが称揚されてゐる

地元の繁栄をはかる……信用金庫

諏訪信用金庫

株式会社

理事長 山岡利平 (28回)

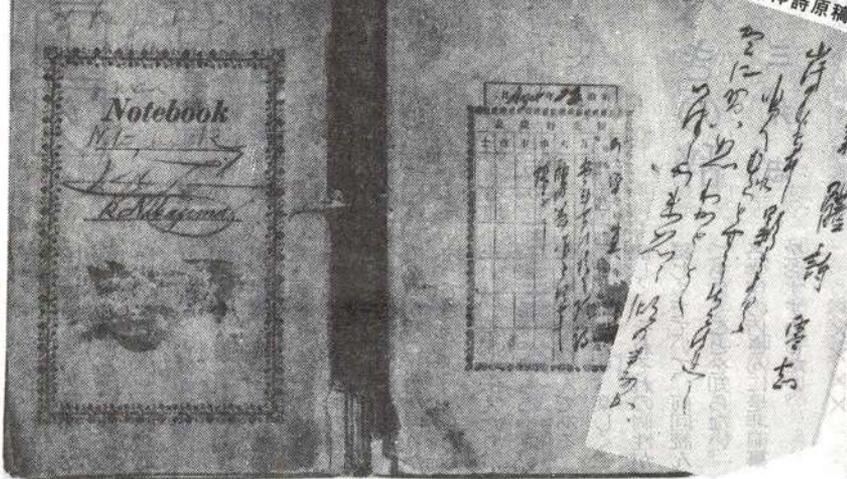
専務理事 宮坂久臣 (49回)

本店 長野県岡谷市幸町7番41号

TEL 岡谷 (02662) 3-4567

のである。一高「校友会雑誌」第一四八号(明三八・六・二〇刊)に「唯だ予の驚嘆して休まざるは、中島君が辞のうの頗る重くして、時に天外より来る奇語を聴く事一再ならざるにあり。あゝ君も亦彼の所謂天才なるもの乎」と、当時の教授安達太郎氏が称賞しているのである。「あゝ搏浪」の博覧強記とも言えるあの詩句は、かかる「天才」にしてはじめて可能だったのである。

雪窓の署名ある中島氏ノート



る資料を世に出させたことを、感謝申し上げます。さらにこの件に関して、多くの方々に多大な御迷惑をおかけしたが、真実究明のために絶大な御協力を下さった関係各位に、心から感謝申し上げます。



もう一言いわせて下さい
36回岩波泰明

日本一長い校歌といわれる『あゝ搏浪』の作詞者について、中島喜久平という定説を覆すような故原田福太郎氏の論文が二号に掲載された。その経緯は二号にある通りである。

その後、私は中島源造氏の来訪を受けた。そして、あゝ搏浪の作詞者は中島喜久平である論拠を語る示された。中島喜久平が雪窓と号したことがあること、さらにその後の著作などに校歌と類似の語句がいっぱいあることなど説明された。そのことについては本号の年中委員会の記事の通りである。勿論私には異論はない。それどころか中島源造氏の努力に深く敬意を表したい。

しかし、もう一つ、何かが欠けているように思う。というのは、竹ノ内節二作ではないという決定的なものか欲しい。校友会誌第一号には、作詞者は雪窓となっており、中島喜久平も竹ノ内節二も雪窓の雅号を用いた。二人とも作詞の能力があり、また中島のみならず、竹ノ内も類似の語句を他の文章に用いている。

校友会誌第一号の雪窓作が中島喜久平作に代わった理由は何か。さらに、昭和十年竹ノ内省三氏が信陽新聞に「あゝ搏浪は兄竹ノ内省二の作ではないか」といった一文を発表したところ、牛山伝造先生が「おめえはえええことをしてくれただんだ」と省三氏にいったという。その意は奈辺にあるか、いさゝか気にかゝる言葉である。

また、もし、節二の作ならば、節二は何故に沈黙を守っていたのか。これもまた謎であり、故折井衡氏が「竹ノ内省三氏に『あれは君の兄さんの作詞である』とわざわざいわれたことの真意もまたみんな故人となってしまうた今では知るよしもない。ともかく、私は、真実を知りたい。雪窓は雪窓でも中島雪窓なのか竹ノ内雪窓なのか。

まごころかよう…おつきあい

二十銀行

岡谷支店

岡谷東支店

下諏訪支店

諏訪支店

諏訪本町支店

茅野支店

富士見支店

一英英支店

享年たより

山紫会報告(第34回)

河西康雄

我々の会の名称は三十四回卒業の三十四を山紫と云いかえて山紫会と名付けた訳です。八十年記念の折に東京等遠方の級友が多数集ってから各地区毎に年に一回または二回のクラス会を各地区当番制で開催してい

空しかるべきの辞

36回 三井忠

私たち三十六回生(昭和庚午五年入学)は昨年十一月の同窓会総会の開かれた日、会誌「空しかるべき」を発行した。恩師懐旧(故小沢俊雄、天崎山重、北沢芳五郎、吉江幸一郎、山岡正人、大須賀瑛司、山本藤吉の諸先生の寄稿)をはじめ行雲流水(会員の想出、

また、生存者の中にも、病床に呻吟している仲間もある。年老いたとはいいたくないが、心細いといわざるを得まい。とにかく相寄り、助け合ってこれからの人生を充実していきたいものだと思っている。

さて、一年と有半の歳月をかけてつくりあげた文集であるが、こし方を振りかえって感慨を述べるものもあれば、現況を伝えたり、将来に希望や夢もあって、まだまだ意気盛んである。いずれにしても、楽しく、懐しく、それぞれの個性がにじみでていて、何回読んでも飽くことを知らない。各学年の皆さん是非編纂をおすすめしたい。

XXXXX

昭和五年四月五日、私はちばあこがれの長野県諏訪中学校の校門をくぐった。見知らぬ者が東から西から南から北から相寄り、その日から同じ学年という新しい集団を何の疑問もなく形成した。やがてその集団は必然的に四散する運命に



あつて、それぞれがそれぞれ、か、臉に浮んでくるのは、少年時代の友の姿である。同じ学び舎で席を並べて学んだということが、これほど強い絆で結ばれることにならうとは、往時誰が想像出来たであろうか。それは多感な少年時代の交友であったこと起因するにしても、まことに不思議な縁とて、かつての紅顔の美少年はまことに、その魂の叫び合の所産である。幾とせ、このごろ無性に人恋しい。幾とせせぶりのかの対面である。人は何時の時代も、誰でも孤独であるというけれど、私たちに友があった。どこかで、誰かが、声なき声、例外もないが、省みれば、あまりにも報われることが

医療法人若草会

花屋二文化ヶ丘病院

諏訪郡富士見町富士見4654
TEL 02666@2046 (代)

- 院長 五味 一 (32回)
五味 清英 (62回)
小川 由英 (64回)
五味 邦英

- 岡谷東支店
岡谷支店
不調支店
彌生支店
藤本支店
菅野支店

少なかつたように思う。それは仕方ないことでもあるし、負け惜みながらそれだいたいと思う。

諏訪中学校の校歌「ああ博浪の」の二番に「空しかるべき男の子やもいで独歩せん大地に」の一節がある。これは万葉集山上憶良の歌「男の子やも空しかるべき万代に語り継ぐべき名を立てずして」から引用して

昭二一会雑録

宮坂亨

た友は六十余人を数える。心から幸福を祈るとともに、私たちは、今現在、生きていく幸せをしみじみと有難く思う。万代に語り継ぐべき名を立てずとも、こゝろを振り返れば、語の継ぎ（序文から）

昭和二年に卒業された先輩方の同級会の名前を知らずに、昭和二年に清水ヶ丘に入学会した吾々が、その時、掲げられて追悼のよすがに級会名を、同じく昭二会としてしまった事を知ったのは、第一号の同窓会報の誌上であった。順序から言

えは、先輩方の御命名の方がさきであるから、吾々の方が改名しなければならぬが、ツクのない連中のごと、其のままにしておりませぬ。先輩、之御免の程を

此の前の御柱年（昭和十九年）吾々の大部分が甲寅の、相当コタと言ふ名が通つておる連中で、それが六十になったからと集ま

るべき」とした所以はそこにある。思えば、幽冥境を異にし

くべきことは多い。そしてそれは千万言を費しても到底語り尽せるものではない。せめてこの文集の行間には、それぞれ思い出で埋めたい。空しかるべき名を立てずとも、こゝろを振り返れば、語の継ぎ（序文から）

ル」と言うーそれが気になる。淋しさのなかにけなげさを感じさせる知らせがあった。今井君の事は、高木常雄君からの連絡であったが、これまた最近になつかしい御便りをいただいた方なので残念であった。

同窓の方で、ブラジルに縁故のある方、昭二会会員の方、何とぞ諏訪市諏訪の方の御苦勞を察します。

判らない人のそれを探すの。一種の推理小説的興味があります。名簿整理の方の御苦勞を察します。

矢嶋松朗 〒188 保谷市富士見町四-17-7 住所 東村山市萩山町四-10-19 (電話 〇四三-

小松君の未亡人からは、「自分の選んだ新聞に」読売に一生を捧げたことの満足を小松君の胸中を伝え

小松君については、今年の年賀状に次ぎのようなものを送って来た。



小松公平

電話 〇三一九五〇七

東洋軒

フランス料理
日本料理

結 婚 式
大・小宴会・集会
出張パーティ

- ◇神宮外苑 日本青年館内 東京都新宿区霞ヶ岳町15 03-401-7530
- ◇馬場先門 東京商工会議所内 " 千代田区丸ノ内3-2-2 03-213-1725
- ◇飯田橋駅前 飯田橋会館内 " 千代田区富士見2-10-36 03-264-7588
- ◇新宿駅南口 池田ビル地下 " 渋谷区代々木2-7 03-379-1461

※日本青年館は国際会議場を含めた近代的設備をととのえまして54年2月1日新装オープンいたします。郷党の皆様のご利用をお待ち申し上げます。

九四一〇三六二保谷市は
お店のそれ、あとが住所、
流通問題についての研究者

◆小林五郎 〒2552 神
奈川県高座郡綾瀬町綾西四
一七一二 (電話)〇四六二
七八一六一四七)。有賀忠
義君よりの通報で、東京の
会合に、出席されよ。東京
は年会費をとるが、歓迎し
てくれること請合。

◆久慈直正君 〒2777
横浜市緑区千草台29185
(電話)〇四五九七二一
一三四六)君の美少年ぶりは
皆の話題の種だ。東京会
に入会されよ。東京会的事
務総長小口健二(電話)〇
三二七一一五七二〇)三
和交易(株)に、前のお二
人も(辰野岩井君の通報で)

◆神林二男 勤務先変更、
松高時代の同級生のよしみ
で民社社々木委員長の秘書
を引受けた由。東京昭二会
は会長をおかず、級長をお
く。在学時代、級長になら
なかつた者が、級長の辞令
をいたたく時は喜々として
おる。神林君は五十二年度
のそれ、現級長は矢田(岩

波)満夫君。次期は後町善
太郎君、副級長が一年後に
昇格することになっている。
在郷昭二会は現代表幹事藤
森秀雄君、ほは二回大会を
主宰したら後任者をめつけ
てお譲りの任組みにしよう
といっている。小生は名簿
整備お手伝いをしておりま
す。寿命も延びたし、同級
会はもはや新入者は一人も
ない会。かけてゆけばかり
う。

◆武居利広 勤務先(株)
吉祥寺ステーションセンタ
一(〇四三二二二一三三
五二)
◆立石茂人 住所訂正 〒
243102 神奈川県厚
木市下川入六五六一三
◆豊田武夫 住所訂正 〒
373 群馬県太田市八幡
町三五一一。

昭二会便り

古稀を迎えて

五月二十八日(日)午後
四時半より、東京新宿ステ
ーションビル八階レストラ
ンフチモンドにおいて同級
会を開いた。午後三時半に
は諏訪の連中十名が同じ列
車で乗り込み、続いて東京
周辺から二十四名到着した。
懇親会の始まるまでのひと
ときは懐旧談でとても有意
義、七十歳の者共とは思え
ない元気で、諏訪中時代の
七サを彷彿たらしめた。同
級生は昨年から古稀の

影の一人も欠けぬようにと
祈る。
諏訪から参加した連中が、
健康の優れぬ者を庇い合い、
全員揃って日帰(り)旅行を
強行し、七時発の列車で和
気相々帰路についた。この
友情はほんとうに美しかっ
た。

今迄で諏訪頼岳寺での同
級生の慰霊祭の時のみ顔を
合せていたが今度は同級生
のよこのびの会合であった。
かえさせて頂たく。



<p>大出 下諏訪倉庫 株式会社</p> <p>取締役社長 三井 周一郎 専務取締役 三井 章義</p>	<p>武井 医院</p> <p>院長 武井 秀夫</p> <p>下諏訪町大社通り三三三八</p>	<p>平山 医院</p> <p>院長 平山 正健</p> <p>下諏訪町御田町三二四九の七</p>
--	--	---

諏訪湖一周マラソン

OBの参加を

来る十月二十八日(土) 本藤吉先生ご夫妻(20回生) 母校恒例の湖水一周マラソンをほはじめ、神戸より向山博ン大会が行われます。八十人さん(33回生)東京より周年記念行事以来、先輩各山本哲朗さん(41回生)又位の参加が年々ふえ、昨年地元からは井上彦次、小松(第64回)は足利市から山 昌明さん(42回生)何れも連 諏訪秋宮前(5km)を通り、長地小学校前(3.6km)の歩

続5回参加)山崎壮一さん(51回生、56回生)夫妻を含め約30名の参加がありました。幸い本年は総会の前日行われますので、先輩各位の多数の参加を望みます。コースは交通事情の為昔と大きく異り、旧道角間橋さきの高国寺前をスタートとし、女子及び年輩者は午前8時40、男子は9時出発

昭和53年度総会のご案内

本年の総会は下記により行います。多数ご出席下さいますよう、ご案内いたします。

- 日時 昭和53年10月29日(日)
午後1時30分より
場所 母校 体育館
会費 1000円(当日受付で)
議題 1. 昭和52年会計報告
昭和53年度予算の件
2. 創立80周年事業経過報告
3. 役員改選
4. その他

懇親会

本年も会員提供賞品付きくじ引きを行います。

年毎ににぎやかな楽しい総会になりました。皆様お誘い合わせの上、多数出席下さいますようお願いいたします。学年クラス会をこの時期にお合わせ下さるなど同級生への呼びかけをお願いいたします。



道橋を渡り、横河川の土手を一路諏訪湖に向う。しばらく湖水端を走り、釜口水門(4.2km)を渡る。水門を渡るといよいよ参加方法も如何小坂観音(3.5km)に登る。起伏の多い農山道を豊田有賀(2.7km)に下る。信号器に従って県道をよこぎり広い平坦な農道を一気にゴール高島公園(3.5km)に向う。全行程約23km弱。希望される方は母校音楽教室(OB控室)にて受け、セッケンをもらい

参加して下さい。くれぐれも健康診断をお忘れなく。又全コースはともかくとして行けるところまでやってみるといふ参加方法も如何かと思ひます。

○連絡先
松崎元博(50回生) TEL 026665131425
山崎壮一(51回生) TEL 026665121255
第一回大会大正四年十二月四日山本先生の尊父様に

◇会報広告掲載のお願い◇

会報発行経費(1万2千部発行、印刷費・郵送料等約80万円)の一部を捻出するため本号より会員のご協力を得て広告を掲載いたしました、料金は次の通り。

- 大 3万円
- 小 1,5万円
- 全頁 10万円

1万2千部発行、確実に会員の手へ、という有効なマス・メディアにつき大いにご利用下さい。今回は各支部長さんの手をわずらわしましたが、次回よりは広く呼びかけて参りたいと思っております。

株式会社 マカホ

本社工場 長野県茅野市宮川4900
TEL 茅野(02667)2-6111代

マイクロエンジニアリング株式会社
MICRO ENGINEERING CO., Ltd
長野県茅野市ちの塚原989
電話茅野(02667)2-6551番代
テレックス 3362-447

マカホ 総業株式会社

本社 東京都新宿区新宿1-5-7
パークサイドビル2階
電話東京354-3238
代表取締役 花岡健雄 昭和15年入学

総会実行委感じたまま

41回・不惑会 宮坂輝人

八十周年も盛大に終了し、同窓会に気負う心のみ先走り、運営の不手際と共に同窓会を続けるという。その第一回の準備運営の大役を受けてこれを如何に盛大に且つ有意義に、又母校愛を続ける様にするかという事に、我々委員の心配が高まり、考える程に難かしく頭の痛い問題でありました。

しかし、やらなければならぬという使命感と、我々不惑会の名譽と意地にかけても成功させようという心が、次第に皆の心を動かして、心よく夫々の役割を引受け、細部にわたる自分の受持にアイデアを生かして、スムーズな運営を遂行出来た事を感謝しつつも、心を同じくすれば出来るものという自信を、共に学んだ思出と伝統との力を痛感した次第である。

そして一番心配した同窓生諸氏の参会員合、折角の

で、果して満足に出来得るものかと内心思ったもの、さすがに長たる所以を發揮し、手際よく連んで呉れたのにお互敬服し、苦しい時代を乗り越えて来たたまたまのとも思われもしました。出席された諸先輩はじめ同窓生各位には、満足を頂き得なかつた点が数々あらうも、無事盛大に終了した事を心から御同慶に思う次第です。

社長、校長、部長等、長と名のつく人々が受付から椅子の運搬、料理の配列ま

に母校の為に一層の御配慮を頂ければと思います。出席する事に意義を生じ、同窓の喜びを見直すものと思われまふ。

在校職員各位には、クラブ活動の場を移して、会場準備の都合をつけ、又在校生徒と共に準備片付等に協力して頂いた事に心から感謝して止みません。私達が今日ある事の意義を考えると、多かれ少なかれ育まれた母校に感謝し、先輩後輩の心豊かなキズナを強めて生きる意義を、改めて考え

役員名簿

(昭和53・4・1現在)

名譽会長	天島 五郎
会長	大森 栄
副会長	山田 六一
監事	小口 慎三
常任幹事	寺島 泉
	小松 定弘
	藤森 慎次
	藤森 利男
	井上 彦次
	遠藤 智義
	平山 正健
	石井 睦藏
	高木 満
	林 憲二
	高木 常雄

▽はじめは原稿が少なくとうなることかと思つたのに縮切後になつてとっと到来こんどは掲載しきれないありさま、ボツになった方々には平に平にご容赦の程を▽これからの会報の在り方などについては、いろいろのご意見もあるようです。同窓のみさんの唯一の紐帯として、これからはいよいよ重要な役割を占めることになりましよう。さすが清陵の会報といわれるようにしたいものです。宣しく。

「八十年史」 予約募集

諏訪中学
清陵高校

待望の「八十年史」の執筆は委員の手により着々と進められております。ご期待下さい。

- 体裁 A5版約 800頁 上製本箱入
- 価格 3,000円 (多少変動ある見込み)
- 代金支払 納本後郵便にて
- 発行 昭54年10月予定

予約について

同封注文書に必要事項記入の上、ご投函下さい。なお昨年の総合通知の際、申し込まれた方が約1,500名ほどあり、これらの方は新に申し込まれる必要はありませんが、万一不確かの方は念のためもう一度お申し込み下さい。台帳照合の上整理いたします。

支部長	藤森 慎次
諏訪支部	平山 正健
下諏訪支部	林 憲一
岡谷支部	清水 康弘
辰野支部	上伊那支部
上伊那支部	岡島 律司
茅野支部	竹内 丈夫
原村支部	松沢 達
富士見支部	和田助三郎
山梨支部	浅川 清一
東京支部	小口 慎三
松本支部	吉江 久朗
長野支部	五味 連
東海支部	吉江 太郎

赴報

等原 新	4回 立木 正 52・12
古原源之助	23回 伊藤平八郎 53
宮坂 久臣	24回 今井法良 53
清水 康弘	27回 林 治寿 53・1
竹内 丈夫	27回 宮坂 昇 53
伊藤 治夫	38回 桑沢一馬 52・12・22
石田 文一	38回 樋口光男 53・5・20
松沢 達	37回 内山隆正 52・11・2
和田助三郎	31回 小平 修 53・9・23
尾沢 賢一	
村上 利雄	
保延 醇一	
長沢嘉久雄	
矢島 子郎	

▽同窓会報も早いもので、今回で四号を数えることになりました。例によって、あわてての編集、ごそまつ至極で汗顔の至りです。

あ тогоがき